

東京・お茶の水女子大学 知の市場  
お茶の水女子大学 ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室  
2012年度活動報告

2013年2月7日

## 1. 理念と運営

知の市場の連携機関かつ開講機関であるお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は知の市場の創始者として、知の市場の理念と運営の基本方針を共有し、受講者、講師、友の会、開講機関、連携学会、知の市場事務局などと協働しながら活動を展開している。そして、総合的な学習機会の提供、実践的な学習機会の提供、十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価という知の市場が掲げる 4つの教育の基本方針の下で活動している。

また、お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、学生や院生に対する学校教育と社会人教育を切れ目なく連結しさらにプロ人材の育成と高度な教養教育を相互に補完しあうものとして接合することを目指す知の市場の目標を重視している。さらに、社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員参加の中で各々の役割を果たして教育を支えていくことによって教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく真の教育立国を求めて、津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会の構築に向かって進んでいく道を切り開こうとする知の市場の挑戦を高く評価している。

こうした基本認識に立ちつつお茶の水女子大学という背景を踏まえて、高度な教養教育を行うことを主眼としながらも知の市場の創始者として孵化（インキュベーション）機能を果たすことを目標としている。具体的には、新規科目の開拓などによる新たな分野への展開と社会の幅広い人々や機関との間の新たな協力関係の形成などによる新たな基盤の構築といった孵化機能及び学校教育と社会人教育を連結するといった構造改革の孵化機能を果たすことを目指している。

## 2. 2012年度の実績

### 2.1 開講科目と受講実績

2012年度は共催講座として7科目を開講したが、このうち6科目は新規開講科目であった。これらの新規開講科目はグローバル企業とものづくりに係る科目、事業のグローバル化と石油化学産業に係る科目、女性リーダーの社会起業に係る科目、サイエンスコミュニケーションに係る科目、試薬に係る科目、企業法に係る科目であり、知の市場の展開を新たな分野に広げるものであった。こうしてお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、科目の編成及び講師陣の組織化において 2012年度も新規開拓の孵化機能を果たした。

一方、2012年度は関連講座としてお茶の水女子大学の学部学生や大学院生向けに単位対

象科目として3科目を開講した。このうち化学物質総合管理学と安全管理概論は、知の市場で得られた知見を活用しながら知の市場の講師が、大学の正規の授業を行うものである。また、リベラルアーツの生活世界の安全保障の科目に位置づけられるリスク管理（演習）の2単位は、お茶の水女子大学の学部学生が共催講座のうちの1科目を社会人とともに受講する場合に履修届を提出することによって取得できることとした。これらはいずれも、社会の現場の視点を学校教育に取り入れる意味がある。こうしてお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は2012年度も、学校教育の構造改革の孵化機能を果たした。

2012年度の共催講座の受講者の合計は161名で1科目当たりの受講者は23名であり、2011年度の共催講座の1科目当たりの受講者30名及び2012年度の知の市場全体の共催講座の1科目当たりの受講者28名を下回った。一方、関連講座の受講者の合計は75名で1科目当たりの受講者は25名であり、2011年度の関連講座の1科目当たりの受講者43名及び知の市場全体の関連講座の一科目当たりの受講者40名を下回った。共催講座と関連講座を合計した全体の受講者の合計は236名で1科目当たりの受講者は24名であり、知の市場全体の1科目当たりの受講者37名を下回った。こうした傾向は、小規模大学であるお茶の水女子大学の特性と孵化機能を担う開講拠点の特質を反映している。

表1 2012年度応募・受講状況一覧

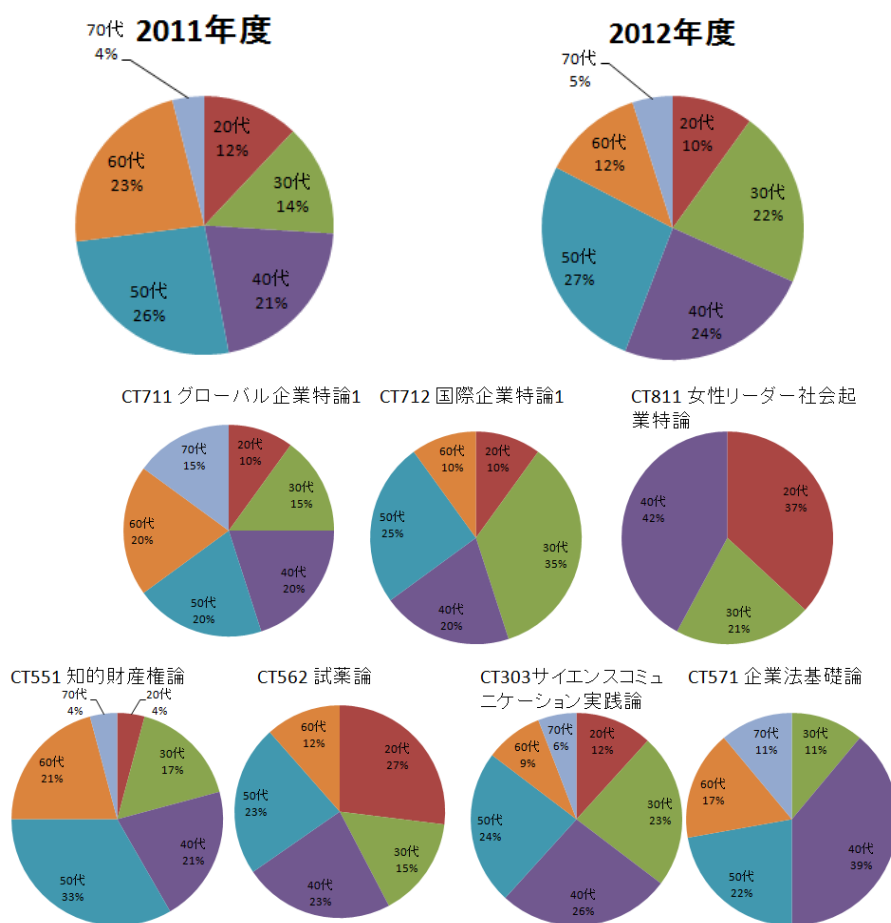
区分		科目番号	科目名	応募者 (人)	受講者 (人)	修了者 (人)	修了率 (%)	
共済講座	前期	新規	CT711	グローバル企業特論1	20	20	8	40.0
		新規	CT712	国際企業特論1	20	20	6	30.0
		新規	CT811	女性リーダー社会起業特論	23	23	9	39.1
	後期	新規	CT303	サイエンスコミュニケーション 実践論	34	34	9	26.5
		新規	CT551	知的財産権論	19	19	4	21.1
		新規	CT562	試薬論	26	26	9	34.6
		新規	CT571	企業法基礎論	19	19	8	42.1
合計				161	161	53	32.9	
関連講座	通年	リスク管理（演習） 《学部》（注）		9	9	3	33.3	
	前期	化学物質総合管理学 《大学院》		6	6	6	100.0	
	前期	安全管理概論 《学部》		60	60	52	86.7	
	合計				75	75	61	81.3
総合計				236	236	167	70.8	

（注）知の市場の共済講座のうちお茶の水女子大学で開講されるいずれかの科目を大学学部履修登録して受講した場合、リスク管理（演習）の2単位が取得できる。

## 2.2 応募者の属性

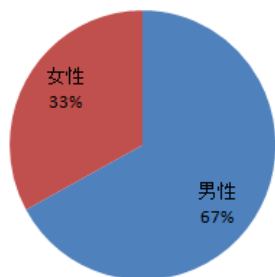
2012年度の共催講座の応募者の属性は次の通りである。

1) 年齢構成については、20～50歳代の現役世代が2011年度の73%に対して、2012年度は増加して83%となった。知の市場全体では現役世代が約80%であるのに比べて、2011年度は低い割合であったのが2012年度は知の市場全体の傾向に近づいた。各科目別には、国際企業特論1、女性リーダー社会起業特論、試薬論、サイエンスコミュニケーション実践論では現役世代が約80～100%と大多数を占めている一方で、グローバル企業特論1、知的財産権論、企業法基礎論では現役世代にとどまらず60代以上の応募者の割合が比較的高かった。



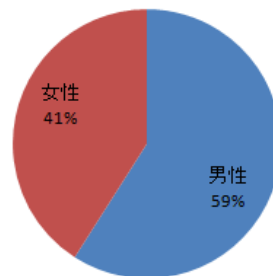
2) 男女比については、2011年度は男性が67%、女性が33%であったのに対して、2012年度は男性が59%、女性が41%となり、女性の応募者の割合が増加した。知の市場全体では女性の割合が32%であるのに比べて、2011年度はほぼ同じであったが2012年度は女性の比率がやや高くなった。各科目別には、グローバル企業特論1、国際企業特論1、知的財産権論、企業法基礎論では男性の割合が70%以上を占めているのに対して、試薬論、サイエンスコミュニケーション実践論では女性の割合が3割を超えている。女性リーダー社会起業特論は全応募者が女性でありひととき異彩を放っている。

### 2011年度

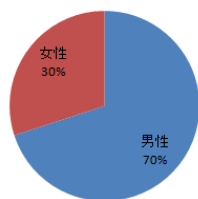


CT711 グローバル企業特論1 CT712 国際企業特論1

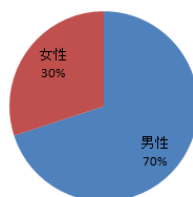
### 2012年度



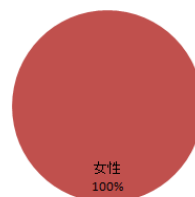
CT811 女性リーダー社会起業特論



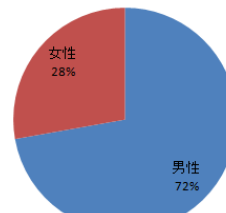
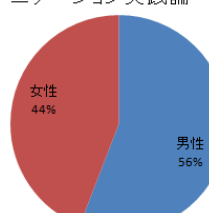
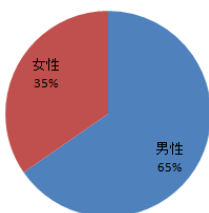
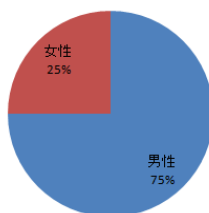
CT551 知的財産権論



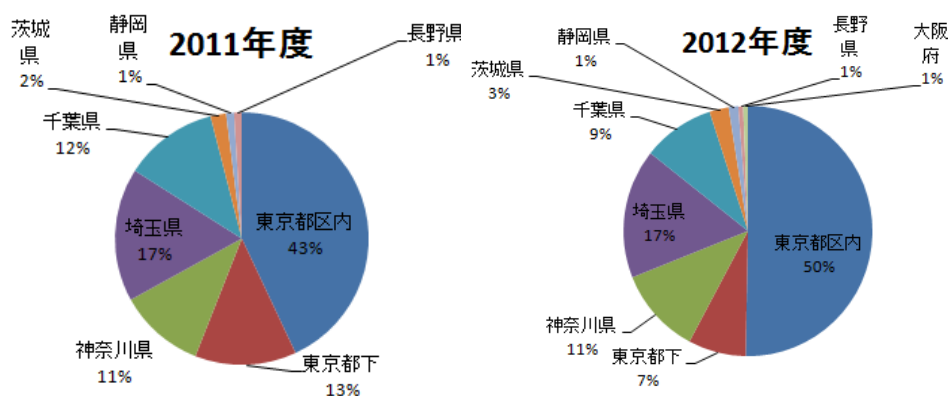
CT562 試薬論

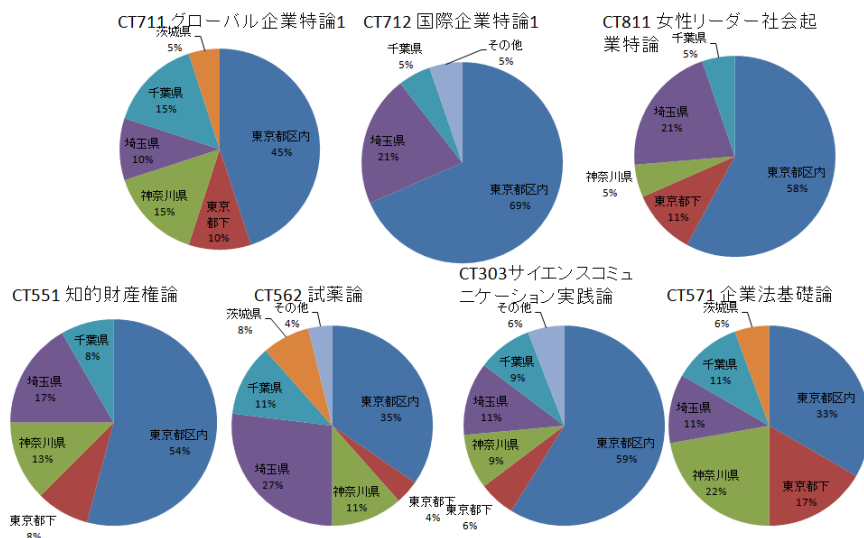


CT303サイエンスコミュニケーション実践論 CT571 企業法基礎論

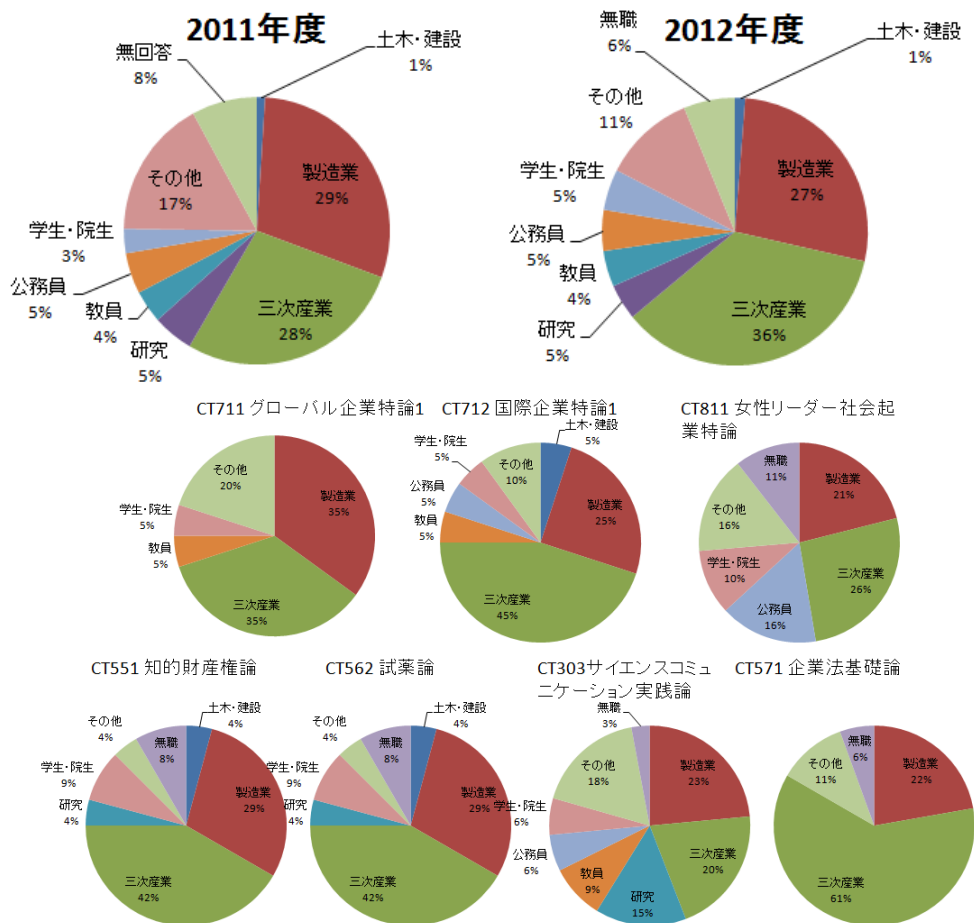


3) 応募者の居住地については、2011年度は東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城の首都圏で全体の98%を占めていたのに対して、2012年度も97%とほぼ同じであった。また、2011年度に引き続き、静岡、長野といった遠方からの応募者が少なからずあった。各科目別には、グローバル企業特論1、女性リーダー社会起業特論、知的財産権論、企業法基礎論は全応募者が首都圏に居住していたのに対して、国際企業特論1はその他の地域からの応募者が5%、試薬論は4%、サイエンスコミュニケーション実践論は6%を占めている。





4) 業種別については、2011年度は製造業が29%と最も多かったのに対して、2012年度は三次産業が36%と最も多かった。知の市場全体では製造業の割合が41%であるのに比べて低い割合であるが、一方知の市場全体では三次産業の割合が29%であるのに比べて高い割合である。各科目別には、国際企業特論1、女性リーダー社会起業特論、知的財産権論、試薬論、企業法基礎論では三次産業の割合が最も高いのに対して、サイエンスコミュニケーション実践論では製造業の割合が最も高い。グローバル企業特論1では、三次産業と製造業の割合が同じである。



### 3. 2013年度の計画

#### 3.1 開講の方針と概要

2013年度もお茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター増田研究室は、これまでの基本認識を踏襲しつつお茶の水女子大学という背景を踏まえて、高度な教養教育を行うことを主眼としながらも知の市場の創始者として新規科目の開拓などによる新たな分野への展開と社会の幅広い人々や機関との間の新たな協力関係の構築などによる新たな基盤の構築といった孵化機能及び学校教育と社会人教育を連結するといった構造改革の孵化機能を果たしていく。

2013年度に共催講座として開講する科目は6科目であり、2科目が継続科目で4科目が新規科目である。なお、2012年度に開講した7科目のうち2科目は孵化機能の成果とともに他の開講機関に移譲され、2013年度は新たな機関のもとで開講される。

また、2013年度に関連講座として開講する科目は3科目で2012年度と同じ科目数であるが、1科目が隔年開講で入れ替わっている。そのうち 2科目は知の市場の共催講座で得た知識や経験を活かしたお茶の水女子大学の学部学生を対象とした科目である。また、これまで通り、共催講座の科目は履修届を提出することによってリベラルアーツ生活世界の安全保障の科目に位置付けられるリスク管理(演習)を履修したのものとして2単位を取得することができる。こうして2013年度も構造改革の孵化機能を果たしていく。

表2 2013年度開講科目

区分		科目番号	科目名－副題
共済講座	前期	新規 CT304	サイエンスコミュニケーション実践論 2 －リスクコミュニケーション入門－身の回りのリスクをめぐって－
		新規 CT534	サウジアラビア特論－生活の安全保障の視点からサウジアラビア石油の安定供給の日本にとっての意味を考える
		継続 CT571	企業法の基礎－現代人の基礎的素養としての企業法の基礎
	後期	継続 CT303	サイエンスコミュニケーション実践論 1 －21世紀の産業技術リテラシーを展望する
		新規 CT445	化粧品の科学－化粧品を科学的な側面から学ぶ
		新規 CT573	現代環境法入門－裁判事例を通して環境法制のあり方を考える
関連講座	通年	リスク管理(演習)《学部》	
	通年	社会技術革新学概論《学部》	
	前期	安全管理概論 《学部》	

(注) 知の市場の共済講座のうちお茶の水女子大学で開講されるいずれかの科目を大学学部に履修登録して受講した場合、リスク管理(演習)の2単位が取得できる。

### 3.2 開講科目の概要と特徴

#### (1)共催講座

##### 1) サイエンスコミュニケーション実践論 2

21 世紀の今日の社会において重要な役割を担うサイエンスコミュニケーションの中でも特に「リスクコミュニケーション」の事例を紹介し、その理論と実践的技術を学ぶ科目を、日本サイエンスコミュニケーション協会と新たにくらしとバイオプラザ 21 を連携機関として新規に開講する。

##### 2) サウジアラビア特論

国民生活の安全保障にとって最重要課題の一つである石油の供給について、我が国にとって最大の供給国であるサウジアラビアにおける石油の安定供給と日本との関係について論じる科目を、社会技術革新学会を連携機関として新規に開講する。

##### 3) 企業法の基礎

会社法と金融商品法を対象として企業活動と法律との関連を分析・説明し、現場の企業人としての問題意識を基礎に考えるとともに、これらの法律の基本にある法理の理解に資することをめざす科目を、2012 年度の開講実績を踏まえてお茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター（増田研究室）を連携機関として継続科目として開講する。

##### 4) サイエンスコミュニケーション実践論 1

21 世紀の社会において重要な役割を担う「サイエンスコミュニケーション」の活動事例を紹介し、その理論と実践的技術を学び、産業技術社会の健全な発展につなげる科目を、2012 年度の開講実績を踏まえて日本サイエンスコミュニケーション協会を連携機関として継続科目として開講する。

##### 5) 化粧品の科学

化粧品の基礎知識から化粧品を支える科学、化粧品の成り立ちを実際に手に触れながら学ぶとともに、安心・安全に対する取り組みやグローバル化を含む化粧品業界の状況を解説する科目を、新たに資生堂リサーチセンターを連携機関として新規に開講する。

##### 6) 現代環境法入門

裁判事例を通してさまざまな環境分野における課題に対する理解を深めるとともに、課題の解決のために有効な法制度のあり方について考察する科目を、新たに第二東京弁護士会および環境法研究会を連携機関として新規に開講する。

#### (2)関連講座

##### 7) リスク管理（演習）

共済講座の科目を受講し現実の社会で働く社会人の中に加わり共に学ぶことによって、社会の現況に対する理解を高めて世界において自らを活かしていくための教養の深化を図る科目として、リベラルアーツ科目の位置づけでお茶の水女子大学の学部学生を対象に開講する。

#### 8) 社会技術革新学概論

技術革新と社会変革に関して日本の社会が直面している課題について論じる科目をリベラルアーツ科目の位置づけでお茶の水女子大学の学部学生を対象に隔年で開講する。

#### 9) 安全管理概論

化学物質の管理に必要な基本的な考え方を紹介する科目を基礎科目の位置づけでお茶の水女子大学の学部学生を対象に 2012 年度に引き続き開講する。

#### 4. 今後の方針

知の市場の創始者として長年の活動の中で培ってきた経験と信頼を基礎に、新規開拓や構造改革の孵化機能をさらに高めていく。